



H 2 0 年 7 月 2 5 日

さ く し ん

下氷鮑小学校

(校長室だより 4) 校長 大内 徹

猛暑の毎日であります。保護者の皆様には元気にお過ごしのことと拝察申し上げます。登校日数 77 日の一学期も本日で終わり、子ども達は夏休みに入ります。今日はそれぞれのご家庭、お子さんはどんな顔をして通知票を渡されたのでしょうか。私事で恐縮ではありますが、通知票といえば、私も小学校、中学校、更に高校時代のもので保存してございます。私がとおいたと言え、いかにも聞こえがよいのですが、実は私の母親が菓子箱の類にしまって大切に(?) もっていたのでした。押し入れを整理していたら、母親が残していった物の中から見つかり、懐かしく振り返っている次第です。通知票の内容は言うまでもなく悲惨なものでした。遊んでばかりいた自分がいけないのですから、まあ仕方ないと言え、仕方ない成績でした。「努力が足りない」と担任には評され、家庭からの通信欄には「最近遊んでばかりいて困ります」と同じようなコメントが記されておりました。そのお陰で、後々高校に入学してから苦労しました。ただ助かったのは、評点の 1 や 2 については、余りうるさく親から言われたり、説教を受けたりしたことはありませんでしたが、担任の記入した生活態度や行動に関する所見については、母はしっかり読んでいたようで、いろいろ事細かに親から小言を言われたのを思い出します。現在、小学校では 5 段階の評定を通知票では行なわず、◎○△の三段階で評価していますが、いたずらに◎や○の数だけで、わが子を見ないようにしていただければ幸いです。大切なのは行動面の所見ではないでしょうか。結果につながっていく、その子の根っこの部分をしっかりとらえて、態度面や基本的生活面(習慣)の何が課題で、どこを改善したらよいのかをお子様と向き合っていていただくのが一番ではないかと思います。小さいうちに身につけた態度や習慣というものは、大人になっても影響するものです。「鉄は熱いうちに打て」の諺ではありませんが、まだ固く凝り固まっていないうちに、悪い芽は小さいうちに摘みとり、頑張っている点、好ましい点はどんなに小さなことでも認め励まし、鍛え伸ばしてやりたいものです。このことはよく言われることで、当たり前のことなのですが、なかなかできていないのが現実であります。

さて、基本的生活習慣で思い出しましたが、五月か六月の頃だったでしょうか、一年生にお子さんをおもちのお父さんが、児童センターにお子さんを迎えに来た帰りに、娘さんを連れて学校のトイレを借りにいらっしゃいました。玄関のスリッパを使用して用を済ませて、玄関から出ようとする娘さんに向かって、そのお父さんは、「ありがとうは?」と、礼の言葉を促しました。娘さんは、「ありがとうございました」と頭を下げて可愛らしくお礼を言うことができました。私は、娘さんと手をつないで玄関を出ていかれるお父さんを見送りながら、「当たり前のことを当たり前のよう指導してくださっていて、頼もしいお父様だなあ」と感心しておりました。また、あるお父さんが校長室前の犬走り、窓際にいた私と話をしていましたら、娘さん(三年生)がお父さんの所によってきました。お父さんのそばでもじもじしている

娘さんに、お父さんは「ご挨拶は？」と、私への挨拶を促されました。娘さんは、気づかされたように、その場ですぐに「こんにちは」と挨拶をしてくれました。同様の場面でこれから先、自分から挨拶ができるかどうかは分かりませんが、親は気づいた時には、その時その場で指導することは大切なことだなあと思いました。そして、例は挙げ切れませんが、このように子どもを指導したり躰けたりする場面は、日常のいたるところにあるのだらうなと思うのです。「このままですませてはいけない」と思い、子どもに行動を促したり注意したりするか否かは、大人の感覚にもよるものかもしれません。子どもは親の言うようには育たず、親のやっているように育つとよく言われます。躰けるべきは子どものうちにきちんと躰けるとともに、親自身が子どもにとってのよき範となるように生活していかななくてはならないことは言うまでもありません。

12日（土）に本校を会場として、犀南地区「親の会」がございました。八つの分散会に分かれて、『家庭が原点』～子どもといっしょに～を研修テーマとして、熱心な話し合いが持たれました。テーマにある原点とは根源の地点。基準になる点であります。原点に立ち戻ってわが子の教育を考え直すとするなら、子どもに対する親のあり様、家庭のあり様が問われます。分散会をまわって参会者の皆様のご意見をお聞きしていますと、それぞれのご家庭で、時間が限られている中、少しでも子どもと会話しようと努力されている様子が伝わってきました。時間があっても、親子で共通の話題が持てなかったり、反抗期のお子さんとコミュニケーションがうまくいかなかったりして苦労されているご家庭もあるようでした（特に中学校）。子どもが話しやすいような環境をいかに生み出していくかが鍵となってくるのでしょうか。子どもと楽しく過ごすために、行楽や外食なども考えられるかもしれませんが、子どもにとっては、日常の食卓でのやりとりが充実して、お父さん、お母さんに自分の話を最後まで耳を傾けて聞いてもらえたり、日常的なことを親子共にできたりする時に、うれしさや喜びを感じるのではないのでしょうか。日常の平凡な生活の中でのふれあいの場がほとんどですので、その時間や空間が明るく楽しく、温かな雰囲気になれ、充実したものとなるように、私たち親も学んだり実践したりしていくことができれば幸いです。

夏休み明け、下氷鉋小学校の全員の子どもが元気な顔で登校してくるのを待っています。そして、一学期以上に安全で、明るく、楽しく、居心地のよい学校、基礎学力（生きる力も含めて）をつける学校としてのあり様を職員一丸となって追究して参りたいと存じます。

明日からいよいよ夏休みに入ります。夏休みには花火がつきものかもしれませんが、火事にならないように十分気をつけてやらせてほしいです。